

研究実施のお知らせ

2026年3月13日 ver.1.2

研究課題名

重度骨格性下顎前突症における modified Dingman's mandibular body osteotomy with step を用いた二次的顎矯正手術の有用性の検討：単施設後方視的観察研究

研究の対象となる方

2017年1月から2025年12月の間に島根大学医学部附属病院で顎変形症（重度骨格性下顎前突症）と診断され、modified Dingman's mandibular body osteotomy with step を用いた二次的顎矯正手術の治療を受けられた方。

研究の目的・意義

本研究は、島根大学医学部附属病院歯科口腔外科で顎変形症の手術を受けた患者さんを対象に行うものです。これまでの診療記録をもとに、手術の有用性について調べることを目的としています。

研究の方法

顎矯正手術(がくきょうせいしゅじゅつ)とは、顎変形症(がくへんけいしょう)と呼ばれる顎の過成長や劣成長、非対称などにより噛み合わせの異常や咀嚼・発音・呼吸などをはじめとした顎口腔機能に異常を来している患者さんに対して行われる手術です。一般的に、矯正歯科医に術前・術後の歯科矯正治療(歯を並べる治療)を実施いただいた後に、口腔外科医による顎矯正手術で顎の位置を理想的な位置に調整します。上顎と下顎をそれぞれ前に動かしたり後ろに下げたりして正常な顎口腔機能を獲得できるように顎の位置を調整しますが、それぞれ動かせる範囲には制限があります。特に、下顎が前方に突出している下顎前突症という病態の患者さんの場合、顎を後ろに動かす必要がありますが、過度に動かしてしまうと呼吸の通り道が狭くなったり、術後の後戻りが起こりやすかったりと様々な障害が生じる可能性があります。

当科ではこの術後の問題に対応する手段として、重度の下顎前突症に対して modified Dingman's mandibular body osteotomy with step という術式を用いて二次的顎矯正手術を実施してきましたが、この治療法の情報はまだ少ない現状にあります。そこでこの手術を受けた患者さんを対象に、これまでの診療記録をもとに、手術の有用性を調べることを目的とした調査を実施します。調査は、診断から手術、術後の管理までを一貫して担当した同じ手術チームによる症例を対象とし、2017年1月から2025年12月までの約9年間に行われた治療をもとに検討します。

<利用する情報>

- ・ 年齢（歳）
- ・ 性別（男性/女性）
- ・ 体格（BMI）
- ・ 既往歴
- ・ 薬剤情報
- ・ 画像検査（CT、MRI、パノラマX線写真）
- ・ 手術所見
- ・ 手術時間

<利用する情報の取得の方法>

この研究では、島根大学医学部附属病院歯科口腔外科で行われた手術の記録をさかのぼって確認します。その中から、研究の条件に合う患者さんのみを選び、診療録（カルテ）に記載されている必要な情報を調べます。

<研究対象者の個人情報の取り扱い>

集めたデータは、島根大学医学部歯科口腔外科学講座の研究室にある、鍵のかかる保管庫で厳重に保管します。お名前などの個人が特定される情報と、研究用のデータを結びつける研究対象者リストは、研究責任者のみが管理します。

研究の最終公表を行ってから10年間後に、研究対象者リストはシュレッダーで裁断して廃棄し、その他の資料や記録媒体についても、適切な方法で確実に処分します。なお、この研究で得られた情報が、患者さん個人を特定できる形で外部に公表されることはありません。

研究の期間

2026年4月16日～2028年12月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部歯科口腔外科学講座 菅野貴浩

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2026年10月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：管野貴浩

島根大学医学部歯科口腔外科学講座／附属病院歯科口腔外科 松田悠平

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2301 FAX 0853-20-2299